



国際センターに変わります！

Topics

- 1 センター長よりメッセージ：
国際センターに変わります！
- 2 教養教育・伝統文化実践
科目「日本美術演習」
- 3 インターナショナルキャン
プ2016
- 4 グローバルカフェ 第1回
企画“ハンガリーカフェ”
- 5 大連工業大学受入プログ
ラム 日本語学習
- 6 GUGL English Café
- 7 (お知らせ)留学フェア
2017

2017年春、群馬大学国際センター（GUIC: Gunma University International Center）が誕生します。前身の国際教育・研究センターでは、その名称が表すとおり、教育と研究分野における国際交流の推進を目指して、学生国際交流部会と研究国際交流部会というセンターの2つの部会と各学部等が連携しながら活動してまいりました。新センターは学長の直下に置かれ、その機能が強化されます。大局観と機動性を備えた新設の国際戦略室で、群馬大学全体の国際化の方針や事業計画等を企画・立案・決定し、各学部等の代表とセンター教員で組織される国際交流委員会、学生国際交流部会、研究国際交流部会でそれらの実現に向け調整を行い、センターや各学部等の実践につなげてまいります。三層間の「シームレス」な流れを創り出し、国際化・国際交流事業の展開を着実に目指します。

また、国際センターでは新たな発想として、エリアごとに国際交流事業を検討して行く予定です。幸いセンターにはエリアスペシャリスト（地域専門家）の教員が揃っています。アジア・オセアニア地域（特に中国、韓国、台湾、タイ、オーストラリア）、北中南米地域（特にカナダ、アメリカ、メキシコ、コスタリカ、コロンビア）、ヨーロッパ地域（特にロシア、イギリス）で教育や研究等の実践経験を持ち、各国事情に通じたスペシャリストの目線を生かして、それぞれの地域に適した国際交流事業を検討・提案してまいります。各センター教員の専門エリアの詳細については、今後ホームページでご紹介いたします。学生、教職員の皆様、留学や研究の国際交流に関してどうぞお問い合わせください。

国際教育・研究センター長 末松美知子

2017年春 国際教育・研究センターは
国際センター GUIC
Gunma University International Center
に変わります

教養教育・伝統文化実践科目「日本美術演習」*



上：水墨画の授業風景。

下：自作の和凧を揚げる。

日本美術演習は、伝統の中で培われた日本人の美意識や技術を、日本画などの制作を通して学習できる科目です。それらは、日本語や日本文化について理解するための手助けともなるのではないかと考えています。2016年度後期は、留学生10名の参加で、交流を深めながら楽しく学習することができました。学習内容は、日本画、藍染め、埋蔵文化財研究所見学と勾玉制作、浮世絵の技法を取り入れた木版画、和凧、水墨画でした。岩絵の具は扱いが難しい面もありますが、驚くほど集中して取り組み、色彩豊かな日本画を描くことができました。藍染めでは、染液から布を引き上げた時、空気に触れてみるみる藍色に変化していく様子に思わず歓声が上がりました。和凧作りでは、出来上がった後、構内で凧揚げをしました。慣れるにつれて糸の扱いもうまくなり、風を読むことも出来るようになって、凧は空高く上がりました。水墨画では、構図を工夫し、墨の線や濃淡に注意を払って丁寧に作品を仕上げました。留学生の皆さんは、一人一人が自分の考えをきちんと持ち、感覚を大切に制作に臨んでいました。そのことがとても印象的でした。

群馬大学非常勤講師 酒井重良

*2008年度に「日本研究『武道・芸術』実践プログラム」として開始しました。プログラムは、①武道コース、②日本美術コース、③邦楽コースからなっており、第1期(10月～3月)、第2期(4月～9月)に分かれています。日本美術コースは、1期2科目(コマ)が設けられ、1週2コマの授業が連続で実施されています。このプログラムは、2014年度から教養教育「日本語・日本事情科目」の一つとなり、受講生は単位取得ができるようになりました。 国際教育・研究センター准教授 野田岳人

インターナショナルキャンプ2016



みなかみの自然を背景に、農村民泊でお世話になった方々と。

日本人学生と外国人留学生が日英両言語を用いて交流することにより、相互理解を深め、グローバルな視点を育てること、さらには、市民との交流機会の拡大を目的として、2013年度より毎年、国際合同研修(インターナショナルキャンプ)を行っています。本年度は、2016年11月26日～27日の2日間の日程で、日本人学生19名、留学生20名の計39名が参加しました。県内にある酒造の見学と農園でのりんご狩りを体験し、みなかみ町の農村にて民泊を行いました。酒造見学では、酒造りを始める時期や日本酒ができあがるまでの工程に耳を傾け、留学生はもちろん、日本人学生も新たな発見があったようです。りんご狩りでは、りんごを木からもぎ取ることが初めてという留学生も多く、そのみずみずしい味に感動したという声が聞かれました。民泊では、4名程度の多国籍グループに分かれ、各農家で一晩を過ごしました。粉からうどんを作るといった夕食の準備を手伝い、手作りの温もりある夕食を囲みながら農家の方々と交流を深めることができました。異文化を身近に感じ日本の伝統的な習慣に触れる2日間は、日留双方にとって、普段の学生生活では得られない貴重な時間となりました。

国際教育・研究センター講師 船橋瑞貴

GUGL Global Café 第1回企画“ハンガリーカフェ”

平成 29 年 1 月 11 日に群馬大学図書館アゴラにおいてグローバルカフェ第 1 回のイベントとしてハンガリーカフェを開催しました。スピーカーは、ハンガリーのカーロリ・ガシュパール大学からの交換留学生、ポール・アンドレアさん、ヨージャ・ニコレット・アンドレアさん、ケスチュース・アネットさんの 3 人。参加者は、日本人学生、留学生、教員等 29 名でした。実践的なハンガリー語会話を学んだり、ハンガリークイズに挑戦したりしました。また、ハンガリーの衣装を着てみるコーナーもあり、様々な視点から留学生の母国について楽しく学ぶ時間になりました。国際教育・研究センターでは今後も定期的にグローバルカフェのイベントを実施していく予定です。学生、教職員の皆さんぜひ気軽にご参加ください。

国際教育・研究センター講師 園田智子



ハンガリーの衣装を着たり、クイズに挑戦したりしながら楽しく留学生の母国について学びました。

大連工業大学受入プログラム 日本語学習

平成 29 年 1 月 16 日から 24 日まで、群馬大学の大学間交流協定校である大連工業大学の学生を対象として、荒牧キャンパスにおいてショートプログラムが実施されました。このプログラムは理工学部が実施主体でしたが、日本語の学習に関わる部分を国際教育・研究センターが担当しました。大連工業大学から来日した学生は 14 名で、そのうち 13 名が日本語を専攻としていました。

全体のプログラムは日本語学習、日本事情についての特別講義、群馬大学の通常の授業への体験参加、ボランティア学生との交流とその協働作業による課題研究から構成されていましたが、参加学生からもバランスのとれたプログラムであったと好評でした。特に群馬大学の通常の授業への参加が印象的だったようで、日本と中国の研究方法やテーマの設定方法の違いに驚いたという意見を多く耳にしました。

日本語学習は、国際教育・研究センターの教員が担当している教養教育の授業を受講している日本人学生の協力を得つつ進めました。日本

人学生には毎回 5 名程度参加してもらい、事前に大連工業大学と打ち合わせて設定していたテーマに沿って、冒頭に 30 分程度の話題提供をお願いしました。その後、大連工業大学からの参加学生と共に 4～5 程度のグループに分かれてディスカッションを行い、授業の最後にグループで話し合ったことを報告するというものでした。初日はなかなか日本語が出てこなかった学生も散見されましたが、日を追うにつれ積極的に発話を行うようになり、学習のモチベーションや運用能力の向上に成果が見られたと感じています。

今回は大連工業大学のみを対象としたプログラムであったこともあり、理工学部が実施主体となりましたが、大学の国際化のためにも、今後は交流協定校全体を対象とした同様のプログラムを国際教育・研究センター主体で行っていく必要があると思います。今回のプログラムでの経験を活かし、参加学生にとってよりよいプログラムを提供できればと考えています。

国際教育・研究センター准教授 牧原功

GUGL English Café

An Opportunity to Use English On Campus in a Relaxed and Casual Way



2016年10月にスタートした English Café。授業以外で英語の先生方と話せるチャンスです！

好評につき、2017年4月からは、月～金の昼休みに毎日開催することになりました。英語のレベルに関わらず、誰でも自由に参加できますので、気軽に立ち寄ってください。

また、これまでは中央図書館アゴラ（荒牧地区）のみでしたが、理工学図書館 Ricomo（桐生地区）にも拡大して実施の予定です。

As part of Gunma University's (GU) internationalization effort and in recognition of a need to provide students with on-campus English language support for the purpose of maintaining or improving English language skills acquired both in and out of a traditional classroom context, the Gunma University Global Lounge (GUGL) and English Café were created as a new project at the start of the second term in October 2016.

Organized in collaboration with Aramaki campus' Central Library, the Center for International Education and Research, and the University Education Center, the English Café is staffed by GU English language teachers originating from the United States of America and the Republic of Ireland.

So far, more than 150 students from GU Aramaki campus' four faculties have taken part. All students regardless of their level and ability, have enthusiastically attended the free two-hour English conversation sessions offered twice a week – Monday and Wednesday – at the Central Library's Learning Commons' Agora Seminar Space.

Reflecting on the results of this new project, we are happy to report that the feedback from the library staff, teachers and students has been very positive. Looking ahead, we look forward to continuing to improve on what has so far been achieved.

国際教育・研究センター講師 Sylvain Bergeron
大学教育センター講師 Richard Sampson

お知らせ

留学フェア2017



新入生オリエンテーションなどで配布される「海外留学の手引き」にもプログラムの概要や留学準備の手順、先輩の体験談などがあります。

4月26日留学フェアを行います。場所は大学会館2階 ミューズホール（荒牧地区）の予定です。留学フェアでは、群馬大学の海外留学・研修プログラムの紹介やプログラム参加者の体験談発表などがあります。アメリカ、イギリス、オーストラリア、タイ、韓国、台湾などへの2～4週間の短期研修、その他協定校への交換留学、学部ごとの留学プログラムなどについての情報が得られます。また、英語学習のアドバイスが受けられるブースもあります。

また、4月～6月にかけて中央図書館では、センター教員による留学に関連した展示も行われます。さらに、センター教員が海外生活の中で体験したことについてお話しするミニレクチャーもあります。

海外での生活に興味がある人、大学在学中に何かに挑戦してみたいと思っている人はぜひ、足を運んでみてください。

国際教育・研究センター講師 大和啓子